

ライオンズ道徳綱領の経緯

< Code of Ethics >

道徳綱領：ライオンズクラブ会員としての基本姿勢、準拠すべき事項を述べたもの。個人に向かって問いかける文章でなく、会員自信の心に呼びかける内容である。

職業の尊さ、事業の成功を前提として、他人への思いやり、目的としての友情、公民の義務、批判精神の保持を明文化している。(ライオン誌日本語版用語達人)

綱領：物事の大切なところ。眼目。団体の立場・目的・計画・方針または運動の順序・軌範などを要約して列挙したもの。

ライオンズ必携初版1963年7月発行

- 1、すぐれた奉仕によって世の賞賛を博するものとなるため、絶えず努力し、自からの職業に信念をもって当たること。
- 2、自己が正当に受けるべき権利として成功を求め報酬を請求すること、しかし不公平な利益獲得のため疑わしき所業をなし、あるいは、己が自尊心を失ってまでも利益や成功を望まないこと。
- 3、事業を遂行するにあたって他人の事業を妨害せざることを念頭に置き、顧客あるいは取引先に忠実であるとともに自己にも真実であること。
- 4、仲間に対する自分の行動、立場に疑念を生じたときは、事故を犠牲にして解決に当たること。
- 5、友情は目的であって手段ではない。しかも真の友情は奉仕の源となる精神が主力となって萌えるにであり、精神のこもっていない奉仕によって友情は生まれない。
- 6、公民として国家および社会に対する義務を忘れず、変わらざる忠誠を言葉に行動に表し、時間と労力と資力を惜しみなく、捧げること。
- 7、不幸な人には同情を、弱い人には助力を、貧しき人達には私財を惜しまざること。
- 8、非難は注意深く、賞賛は惜しみなく、たくましき建設を旨として破壊をさけること。

1967年度ライオンズ必携第9版・下記に変更・現在に至る

- 1、職業に対する不断の努力が正しく賞賛されるよう心がけ、自己の職業の尊さを確信すること。
- 2、事業を成功させて、適正な報酬や利益は受けるべきであるが、自己の立場を不当に利用したり、人に疑われる行いをして自尊心を傷つけてまでも利益や成功を求めないこと。
- 3、事業をし遂行するにあたっては、他人の事業を妨害しないように心がけ、顧客や取引先に誠実であり、自己にも忠実であること。
- 4、世人に対する自己の立場や行いに疑いが生じたときは、世人の立場に立って解決にあたる。
- 5、真の友情は損得の上に築かれるものではなく、心と心のふれ合いによるものであることを自覚し、手段として出なく目的として友情をもつこと。
- 6、国家および地域社会に対する公民の義務を忘れず、かわらぬ忠誠を言葉にあらわし、すすんで時間と労力と資力をささげること。
- 7、不幸な人には同情を、弱い人には助力を、貧しい人には私財を惜しまないこと。
- 8、批判は謙虚に、賞賛は惜しみなく、建設を旨として破壊をさけること。